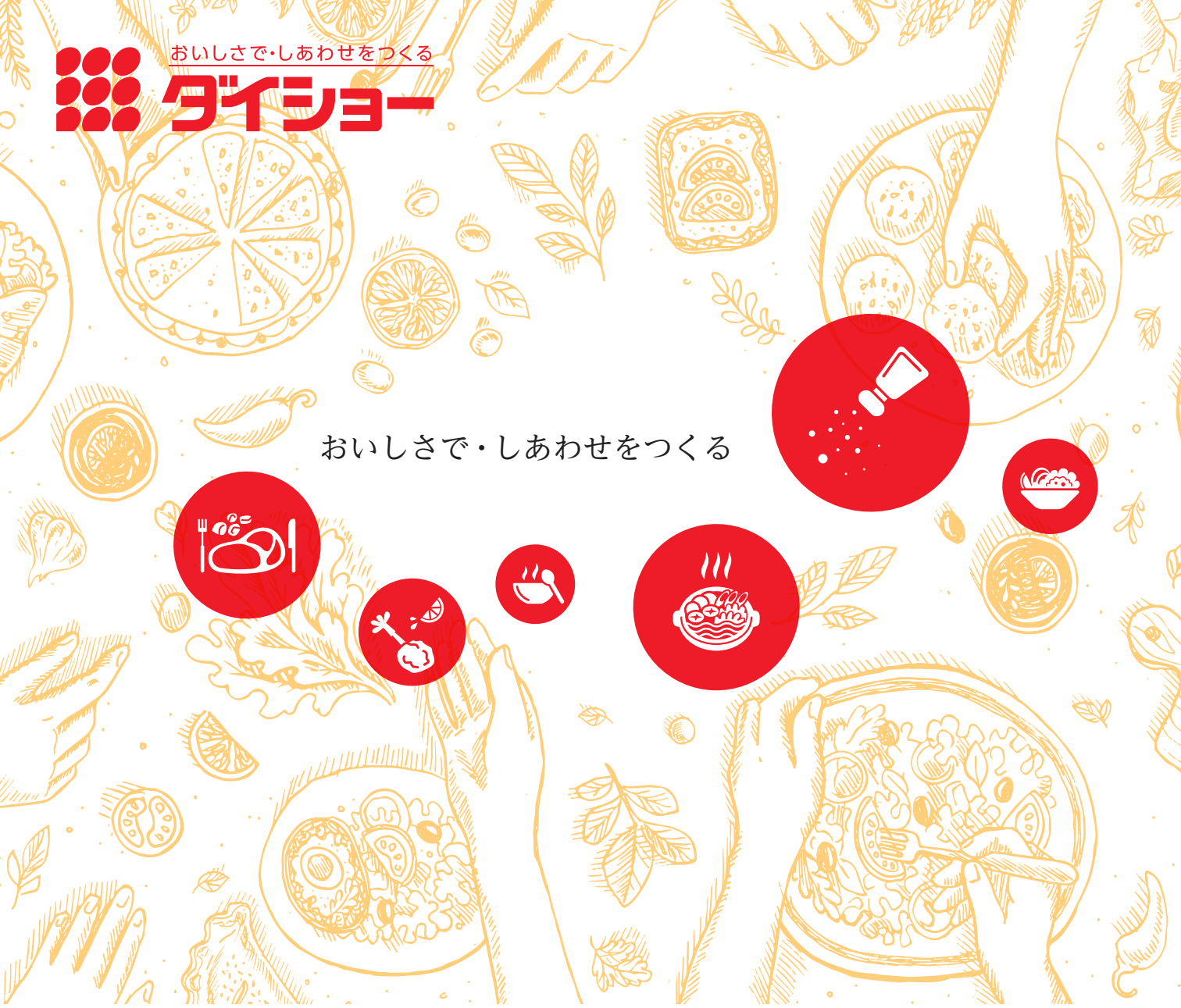
おいしさで・しあわせをつくる

ダイショー



第57期

中間株主通信

2022.4.1～2022.9.30

株式会社ダイショー

証券コード：2816

代表取締役会長 CEO
松本 洋助

取締役社長 COO
阿部 孝博

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、当社第57期・第2四半期累計期間（2022年4月1日～2022年9月30日）の事業概況をご報告させていただくにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

食品業界におきましては、原材料価格の大幅な上昇に加え、物流費やエネルギーコストの上昇も顕著になり、業界を取り巻く環境が大きく変化しています。製品価格の改定に踏み切る食品メーカーも多く、消費者の節約志向は一段と強まりました。

こうした状況のもと、当社では次なるステップに向け、2025年3月期を最終年度とする3か年の中期経営計画を策定しました。ポストコロナの市場変化や資源高騰などの経営環境に対応し、「『ダイショーらしさ』を追求し、企業価値の向上へ」をテーマに掲げ、「『強み』に磨きをかけ、市場・顧客を開拓する」「強い体力づくりへの投資で飛躍の基礎を固める」「社会・社員から信頼される企業体制を構築する」という3つの戦略を柱として、社業のさらなる発展に注力してまいります。

以上の取り組みの結果、当第2四半期累計期間における売上高は、109億63百万円（前年同期比101.4%）となりました。利益につきましては、増収を達成したものの、原材料価格や燃料価格の上昇の影響が大きく営業利益は2億81百万円（前年同期比49.7%）、経常利益は2億87百万円（前年同期比50.4%）、四半期純利益は1億80百万円（前年同期比47.4%）となりました。

なお、当期の中間配当につきましては、前年同期と同額の1株当たり9円とさせていただきました。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q 第57期中間決算および上期の取り組みへの評価をお聞かせください。

当累計期間の製品群別概況では、液体調味料群の小売用製品において、韓国系メニュー調味料を対象とした店頭イベント「韓国フェア」や焼肉のたれ全品を対象としたクローズドキャンペーン「パワーチャージキャンペーン」を実施し『ヤンニョムチキンの素』『秘伝 焼肉のたれ』などの精肉向けの製品が好調に推移しました。また、春夏シーズンにあらたに投入した「名店監修」シリーズの『名店監修 一風堂赤丸とんこつまぜそばの素』『名店監修 麺屋武蔵だし醤油まぜそばの素』が売上を牽引しました。また、鍋スープでは、「名店監修」シリーズ『名店監修鍋スープ すみれ札幌濃厚みそ味』をはじめ、『いとしの鶏鍋スープ 鶏野菜ポタージュ仕立て』や「野菜をいっぱい食べるしゃぶ鍋」シリーズ2品などの新製品が伸長しました。業務用製品では、『にんにく黒胡椒焼ソース』などの精肉向けのオイルソースが好調に推移しました。

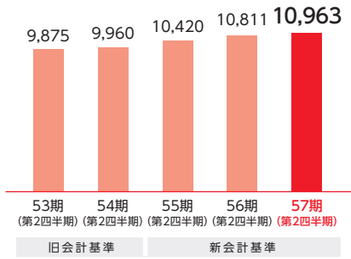
粉体調味料群においては、野菜おつまみメニュー調味料のキャンペーンを展開するなど販売促進に努めた一方で、『味・塩こしょう』シリーズなどの小売用製品の販売環境は依然として厳しい状況が続きました。

その他調味料群においては、「スープはるさめ」シリーズが堅調に推移するなか、新製品を投入しラインアップを一層充実させた「オートミールde」シリーズ2品を中心とした新製品が売上を牽引し、業務用製品も堅調に推移しました。

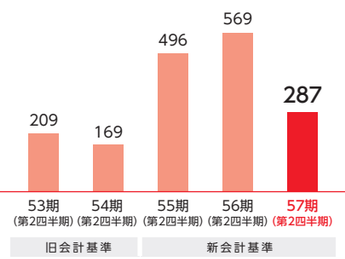
また、3月には、九州工場に大規模な排水処理施設を新設し、工場の処理能力を従来の2倍に増強することで、定番製品、新製品など、多彩な製品展開への対応力を強化しました。

コロナ需要の反動減や原材料の大幅な高騰などの厳しい経営環境を、新製品の好調な売上や、全国の拠点できめ細かな営業活動を実践することでカバーしつつ、全社一丸で逆風に耐えながら下期の事業計画達成に向け布石を打つことのできた上期であったと評価しています。

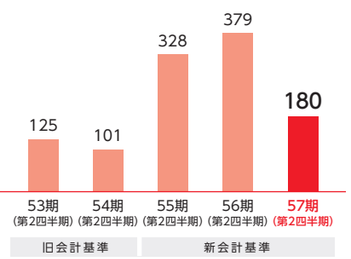
売上高 （単位：百万円）



経常利益 （単位：百万円）



四半期純利益 （単位：百万円）



※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を第56期第1四半期会計期間の期首から適用しており、第55期に係る各数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。第54期以前の各数値については、旧会計基準等を適用したものです。

Q 下期の見通しおよび株主の皆様へのメッセージをお願いします。

2年半にわたり国内外を席巻したコロナ禍という特殊要因の影響もあり、前期まで、当社の収益状況は大幅に改善しました。しかしながら、そうした特需の反動減や、今年2月末に欧州を襲った大規模な戦争の勃発や円安基調による原材料の高騰、物流コストの上昇、人手不足などの逆境は、今後も当社の事業に多大な影響を及ぼすと予想されます。また、流通チャネルの多様化や、コロナ以降の「中食・内食市場」の動向など、市場の変化への備えも求められます。

前中期経営計画の3か年では、収益状況こそ改善したものの、依然として製品アイテム数の飽和や、工場の稼働率、管理コストなど経営効率に課題を残しています。また、主力製品群への集中販売という方針のもと、売上の拡大を図ってきましたが、製品の競争は激化の一途をたどっており、市場における自社の方向性や目指すべきポジションを厳しく見定めるべき時期であると認識しています。

こうした厳しい経営環境や山積する課題を踏まえ、当社は次なるステップに向け、「『ダイショーらしさ』を追求し、企業価値の向上へ」をテーマとする3か年の新中期経営計画を着実に実行してまいります。新中計では、①『強み』に磨きをかけ、市場・顧客を開拓する　②強い体力づくりへの投資で飛躍の基礎を固める　③社会・社員から信頼される企業体制を構築する、の3点を戦略の柱と定めました。

まず、①では、あらたな顧客やニーズを開拓し、ダイショーブランドの認知度の向上に挑戦します。また、選択と集中による重点施策への深耕を推進します。

②では、商流・物流の分離をはじめとするプロセス改革により業務のさらなる効率化を図るとともに、ITの活用による業務のデジタル化でコミュニケーションの質的レベルアップを目指します。また、依然として成長軌道を示している海外市場への取り組みを加速してまいります。

③につきましては、「会社の成長の基盤は人である」という当社の信条を念頭に、制度面、環境面から多様な人材が活躍できる仕組みを創出します。また、社会からの信頼は、企業の持続的な成長に不可欠な要素となっており、製品設計や工場設備などにおいて、環境やSDGsに配慮した対応を進めてまいります。

以上の施策により、新中計の最終年度である第59期の業績目標を、売上高は244億円、経常利益10億50百万円と設定しました。

新中計初年度の第57期通期の業績見通しにつきましては、売上高は232億円、営業利益8億50百万円、経常利益8億50百万円、当期純利益5億40百万円を予想しております。

今後もダイショーの経営理念である「おいしさで・しあわせをつくる」を価値創造の基本としつつ、当社の強みである開発力と提案力を研ぎ澄まし、お客様・お取引先各位との信頼関係を大切にしながら全社一丸となり、事業のさらなる成長と業務の一層の効率化に努めてまいります。

フルーツで盛り上がろう! おうちパーティのスイーツ

『バナナ・いちご・キウイがおいしい! チョコフォンデュソース』新発売

コロナ禍が続くなか、当社が実施したインターネット調査では、「子どもと一緒に作れるメニュー」を意識する方が多くみられ、そして同調査で「チョコフォンデュ」について尋ねたところ、88.5%の方に認知されていることがわかりました。そこで当社は、フルーツを用い、電子レンジで簡単に作れ、時間がたってもソースが固まらず、後片付けもラクチンなチョコフォンデュ専用ソースを開発しました。

Point

- フルーツの食卓出現頻度が低い20~50代のファミリー層を対象に、フルーツを召し上がっていただくきっかけになればと、開発しました。風味豊かなココアパウダーと北海道産のクリームパウダーを加えた、チョコフォンデュソースです。お好みのフルーツにソースをつけてお楽しみいただけます。
- 電子レンジで温めるだけですぐに使えるチョコフォンデュソースなので、準備や後片付けが簡単です。

開発担当者から

商品企画部
奈良 萌々華

ソースの甘さを強めるとバナナのような甘いフルーツではくどくなってしまい、甘さを落としすぎるとココアパウダーの苦味が目立ち、お子様が好まない味になってしまうため、甘味と苦味のバランスを何度も調整しました。
北海道産のクリームパウダーのコクを加えることで、フルーツの酸味を和らげながらもフルーツ本来の甘さを楽しめる味に仕上げ、最後まで飽きずにおいしく食べられるように開発しました。
また、電子レンジで温める製品のため、食べる際の温度やフルーツへのチョコの絡み方にこだわり開発しました。

現地の文化に沿う提案で日本の伝統の味を届ける

日本は人口が減少してきていることから、今後の市場拡大を見据えた際、海外展開が会社としての重要認識であると位置づけ、2015年より海外に精通している人材を積極的に採用しています。人口が多く伸び盛りの中国や、日本食を好む香港の市場拡大などを目標に、本格的な取り組みを展開しています。

取り組み内容

素材メーカーとタッグを組み、クロス販売(素材との組み合わせによる購買促進)を実施。相乗効果により売上を上げることで小売店に喜ばれている。

現地の経験が長い人材を積極的に採用。文化や生活、考え方に配慮した製品提案を行うことで、現地提案先が製品を取り扱ってみようと考える動機付けを行っている。現地のイベントに合わせ、半年前から提案開始。

コロナ禍において、環境の変化に対応した家庭向け製品提案“STAY HOME PROPOSAL”を迅速に行い、ステイホームニーズに対応した通販向けセットなどのラインアップを展開した。

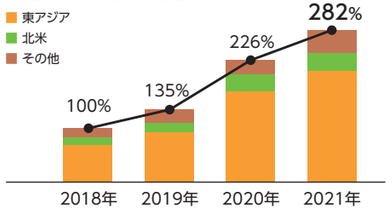
輸出の仕組みチャート

輸出実績

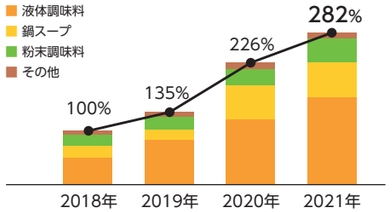
コロナ禍で各国の自粛が続く中、STAY HOME PROPOSALでステイホームニーズに合う製品提案を積極的に行った。

輸出製品は賞味期間18か月を可能としている。

輸出金額の地域別推移



輸出金額のカテゴリー別推移



現地での試食の模様
生の声を活かした製品開発へ

現地の小売店につくられた専用棚

小売店販売員の業務軽減を考慮した陳列パッケージ

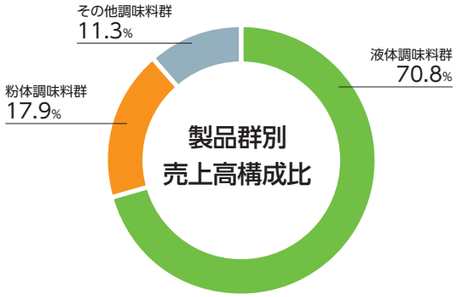
今後の展望

- 今後は、東南アジア向け販売に力を入れていく。イスラム教による食文化であるハラル対応が必須であり、今までのラインを利用できない。そのため、原材料の購入、生産、倉庫などの全ラインをハラル対応とすべく、どのような方法が可能であるか検討を進めている。
- 各地域への輸出が同程度の割合となることを目指し、ひとつの地域に依存しない輸出体制をつくり上げたい。

当社の取り組みが認められ「農林水産省輸出・国際局長賞」を受賞

2021年には、当社の輸出にかかわる様々な取り組みが認められ、公益財団法人 食品等流通合理化促進機構主催の農林水産物等輸出促進全国協議会総会での「令和3年度輸出に取り組む優良事業者表彰」において、農林水産省輸出・国際局長賞を受賞しております。

決算の概要



売　上　高	109億63百万円	前　年 同期比	1.4% 増
営 業 利 益	2億81百万円	前　年 同期比	50.3% 減
経 常 利 益	2億87百万円	前　年 同期比	49.6% 減
四半期純利益	1億80百万円	前　年 同期比	52.6% 減

品目別売上状況

液体調味料群

たれ

小売用では『秘伝 焼肉のたれ』などの主力製品、『サムギョプサルの素』などのメニュー専用調味料が、キャンペーンや店頭イベントなどの販促プロモーションの展開により好調に推移するなか、「名店監修」シリーズの新製品『名店監修 一風堂赤丸とんこつまぜそばの素』『名店監修 麺屋武蔵だし醤油まぜそばの素』が売上を大きく牽引しました。業務用では家庭内調理機会の高まりの継続と惣菜市場の回復を背景に、市場開拓への取り組みを継続し、精肉向け・惣菜向け製品が伸長しました。

スープ

前年に続き、鍋スープの通年製品化に注力し「春鍋」「夏鍋」をテーマに、定番製品を用いた季節に合わせた鍋メニュー提案を展開しました。秋冬シーズンに向けては『いとしの鶏鍋スープ 鶏野菜ポタージュ仕立て』や「野菜をいっぱい食べるしゃぶ鍋」シリーズなど創意に富んだ新製品を投入するなか、人気店のラーメンを鍋スープで再現した「名店監修」シリーズの新製品『名店監修鍋スープすみれ札幌濃厚みそ味』が好調な滑り出しとなり、売上を大きく牽引しました。

ソース

業務用では、『にんにく黒胡椒焼ソース』『アヒージョ風ソース』などの主力製品に加え、『お肉やわらかガーリック醤油ソテーソース』などの新製品を投入し、さらにラインアップが充実した精肉向けのオイルソースが好調に推移し、大きく売上を伸ばしました。

粉体調味料群

小売用は、野菜おつまみメニュー調味料のキャンペーンを展開するなど販売促進に努めましたが、販売環境は依然厳しい状況が続き、苦戦しました。業務用もスパイス類全般で苦戦が続き、売上は減少しました。

その他調味料群

「スープはるさめ」シリーズが堅調に推移するなか、新製品2品を投入しラインアップを一層充実させた「オートミールde」シリーズが売上を牽引するなど、即食製品を中心に伸長しました。

四半期財務諸表

四半期貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科　目	前期末 2022年3月31日現在	当第2四半期末 2022年9月30日現在
資産の部		
流動資産	7,252	7,304
固定資産	8,412	8,212
有形固定資産	7,029	6,859
無形固定資産	117	101
投資その他の資産	1,265	1,251
資産合計	15,664	15,517
負債の部		
流動負債	4,791	4,574
固定負債	1,923	1,898
負債合計	6,715	6,472
純資産の部		
株主資本	8,878	8,971
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	7,742	7,835
自己株式	△114	△114
評価・換算差額等	70	73
純資産合計	8,949	9,045
負債純資産合計	15,664	15,517

- 流動比率は159.7%と前期末より8.3%向上し、返済能力がアップしております。
- 有形固定資産の減少は減価償却によるものであります。
- 負債の減少は主に短期金銭債務の減少によるものであります。
- 自己資本比率は58.3%と前期末より1.2ポイント向上し、さらに充実しております。

四半期損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科　目	前第2四半期累計 自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日	当第2四半期累計 自 2022年4月 1日 至 2022年9月30日
売上高	10,811	10,963
売上原価	6,286	6,568
売上総利益	4,524	4,394
販売費及び一般管理費	3,958	4,113
営業利益	565	281
営業外収益	10	13
営業外費用	6	7
経常利益	569	287
特別損失	0	1
税引前四半期純利益	568	285
法人税等	188	105
四半期純利益	379	180

- 売上高は、前年同期を1.4%上回り10期連続の増収となりました。
- 営業利益は原材料の高騰により、減益となりました。
- 経常利益及び四半期純利益も営業利益と同様、減益となりました。

新製品ラインアップ

… 精肉　… 鮮魚　… 青果　日 … 日配　食 … 食品

[750g]
いとしの鶏鍋スープ
鶏野菜ポタージュ仕立て

[300g]
肉美味しゃぶ鍋スープ
和風だし仕立て

[300g]
肉美味しゃぶ鍋スープ
柑橘塩だし仕立て

リニューアル

[750g]
ごま味噌鍋スープ

リニューアル

[80g]
お肉屋さんのからあげ粉

[750g]
鮮魚亭
あんこう鍋スープ

[750g]
鮮魚亭
海鮮しゃぶ鍋スープ

[80g]
シーフードソムリエ監修 レンジで簡単
魚介のクリーム煮用ソース

[700g]
野菜をいっぱい食べるしゃぶ鍋スープ
おかかとこんぶの風味だし醤油仕立て

[700g]
野菜をいっぱい食べるしゃぶ鍋スープ
ゆずと焼きあごの風味旨塩仕立て

[150g]
バナナ・いちご・キウイがおいしい!
チョコフォンデュソース

[750g]
野菜ソムリエ
青野果菜監修
野菜をいっぱい食べるスープ
チャウダー用スープ

リニューアル

[750g]
野菜をいっぱい食べる鍋
白菜鍋スープ

日

[300g]
博多名物
炊き餃子風鍋スープ

日

[300g]
スンドゥブチゲ用スープ
中辛

日

[300g]
スンドゥブチゲ用スープ
辛口

食

[700g]
名店監修鍋スープ
すみれ札幌濃厚みそ味

食

[45g (15g×3袋)]
機能性表示食品
GABA 配合ゆず茶

食

[92g (4食分)]
オートミールde リゾット
きのこクリーム&トマトカレー

会社概要/株式の状況 (2022年9月30日現在)

会社概要

社名	株式会社ダイショー (英訳名)DAISHO CO., LTD.
本社	東京本社 〒130-0014 東京都墨田区亀沢1丁目17-3 TEL:03-3626-9321 FAX:03-3626-9393
	福岡本社 〒812-0064 福岡市東区松田1丁目11-17 TEL:092-611-9321 FAX:092-611-8288
ホームページアドレス	https://www.daisho.co.jp
設立	1966年12月19日
資本金	870百万円
事業内容	たれ、スープ、粉末調味料など製造販売
従業員数	716名

役員

取締役	代表取締役会長CEO	松本洋助
	取締役社長COO	阿部孝博
	取締役副社長	松本俊一
	専務取締役	中西昌至
	常務取締役	坂田恵補
	取締役	矢野宏一
	取締役	根岸宏樹
	社外取締役	本多伸介
監査役	常勤監査役	牛塚良信
	社外監査役	成清一郎
	社外監査役	馬場正宏

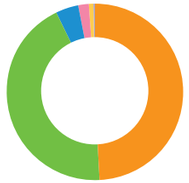
株式の状況

発行可能株式総数 …… 24,000,000株
発行済株式の総数 …… 9,868,800株 (自己株式216,088株を含む)
株主数 …… 19,885名
大株主

株主名	持株数(単位:千株)	持株比率(単位:%)
有限会社山田興産	2,442	25.30
一般財団法人金澤記念育英財団	1,488	15.41
松本賢子	853	8.84
ダイショー従業員持株会	265	2.75
松本洋助	206	2.13
株式会社西日本シティ銀行	180	1.86
株式会社福岡銀行	114	1.18

(注)当社は自己株式216,088株を所有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

株式分布状況



- 個人・その他 …… 49.27%
- その他国内法人 …… 43.53%
- 金融機関 …… 4.14%
- 自己名義株式 …… 2.18%
- 外国人 …… 0.83%
- 証券会社 …… 0.01%

株主優待ご案内

写真は3,000円相当の製品例

株主優待制度の内容

1 対象となる株主様

毎年3月31日、9月30日現在の株主名簿に記載された**100株以上**ご所有の株主の皆様を対象といたします。

2 贈呈品 自社製品詰め合わせ

- 1,000円相当…100株以上
- 2,000円相当…500株以上
- 3,000円相当…1,000株以上
- 6,000円相当…5,000株以上

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
剰余金の配当基準日	期末配当…3月31日 中間配当…9月30日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告して定めます。
単元株式数	100株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	TEL 0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間 9:00から17:00(土日祝祭日除く)

住所変更、単元未満株式の買い取りのお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。(所要時間は5分程度です)

①下記URLにアクセス
②アクセスコード入力後にアンケートサイトが表示

https://www.e-kabunushi.com

アクセスコード **2816**

……以下の方法でもアンケートにアクセスできます……

検索窓から いいかぶ 検索

kabu@wjm.jp ←こちらへ空メールを送信
「件名」「本文」は無記入。アンケートのURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2か月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(QUOカードPay500円)を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社リンクコーポレイトコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
https://www.link-cc.co.jp
●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
MAIL: info@e-kabunushi.com

株主総会資料の電子提供制度のご案内

- 株主総会資料(招集通知)が、原則として「印刷物」から「ウェブ」でのご確認に変わります。
- 印刷した全文の招集通知は原則として発送せず、決算概要や議案内容を要約した印刷物を作成し、議決権行使書用紙とともに発送する予定です。
- 株主総会資料の書面での受領を希望される場合は、株主総会基準日までに「書面交付請求」のお手続きを完了していただくことで可能になります。
- 議決権行使書用紙は、今までどおりお送りします。

スケジュール

2022年8月31日まで 制度周知期間 ▶ 2022年9月1日 書面交付請求受付開始 ▶ 2023年3月以降の株主総会 電子提供制度開始

株主総会資料の電子提供に関するお問合せ先

三井住友信託銀行 証券代行部

電話番号 **0120-533-600** (フリーダイヤル)　受付時間 **9:00〜17:00** (土日祝祭日を除く)

https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency

おいしさで・しあわせをつくる ダイショー
〒130-0014 東京都墨田区亀沢1丁目17-3
TEL:03-3626-9321(代)
https://www.daisho.co.jp

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

PRO-WE PROJECT- With the Earth この冊子の印刷・製本に係るCO₂はPROJECT- With the Earth を通じてオフセット(相殺)しています。

VEGETABLE OIL INK

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C013080